

植調協会だより

◎ 人事異動

平成17年1月31日付

退職 事務局

川本 弘行

編集後記

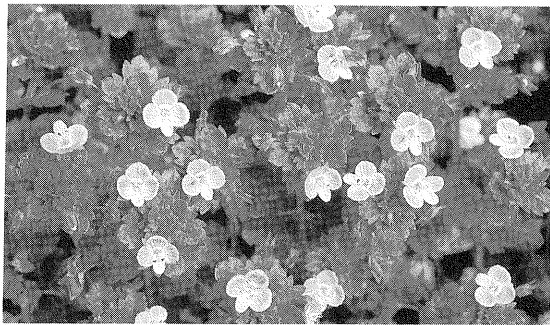
今年は北陸から東北地方の日本海側は19年振りの大雪に見舞われ、雪国の人々は難儀を強いられている。この影響か関東地方も今年も暖冬には変わりはないが、昨年よりは春の兆しが数日遅れているようだ。昨年の今日は（2月16日）はわが家の庭の梅が八分咲きだったが、今年は3分咲きとやや遅れている。

大雪の年は豊作といわれているが、2005年は平和で、豊かな暮しが訪れることを切に願うものである。

節分も過ぎると陽射しも1日1日暖かさを増し、関東の日溜りにはオオイヌノフグリが小さなコバルトブルーの可憐な花を咲かせ春の訪れを告げている。かわいいので摘みとって花束を作りミニ生花

にとコップに差して観賞しようとしてもこれは失敗に終る。何故なら美しい花も1時間も持たずに花冠が落ちてしまうからである。

オオイヌノフグリの花は昆虫が止まると虫の重みで花が傾くので虫は必然的に雄しべにしがみつき、その結果として雄しべの葯と雌しべの柱頭が触れ合って花粉が柱頭につき、



▲オオイヌノフグリ開花期

◎ 訃報

当協会元古川試験地主任紺野亨氏（83歳）は、平成17年1月31日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

やがて日がかげり出すと雄しべがゆるやかに動きだして雄しべと雌しべが近づいて互いに触れ合って自動的に受粉するという巧妙な仕組みをもっている。受粉が終ると花冠はガクの強い挟む力によってポロリと落ちる。

こうした性質からオオイヌノフグリの花は触れると落ちるといわれており、人間の手で触れても同じ理由でポロリと落ちるといわれるが、実際には触れてすぐにポロリと落ちるのはまれで、多くは触れてから時間が経過してから落ちるのが普通である。

オオイヌノフグリの和名は、実の形がイヌのふぐり（鰐丸）に似ているということからついた名であるが、春一番に

咲き出す可憐な花なのでもっと上品な名をと、ルリカラクサ、ハタケクワガタなどと呼ばれたが、これはあまり普及せず、在来のイヌノフグリとの関係からか、オオイヌノフグリと奇妙な名で通用するようになったと言われている。私ならハルイチバンと名づけたところだ。

㊦

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 (03)3832-4188 (代)

FAX (03)3833-1807

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 (03)3833-1821 (代)

FAX (03)3833-1665

E-mail: hon@zennokyo.co.jp

平成17年2月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第38巻第11号

(送料 270円)

印刷所 新成印刷(有)